

平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。マタイの福音書5:9

-----

広島、長崎は原爆投下から77年を迎えました。新聞の記事に「原子爆弾は投下43秒後に地上600メートルで炸裂し、1,000,000度を超える火球となり、爆心地周辺を3000から4000度で焼き尽くした…」想像を絶するような熱であったことを知りました。「今年で死没者は33万3920人となった」苦しみながら亡くなれた人々の記事を読むにつけ、なぜこのような大量殺戮兵器を作ってしまったのか。ただただ人間を殺すために。愚かなことです。聖書には「神は人をご自身のかたちとして創造された」（創1:27）イエス様も「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」（マルコ12:31）と。それゆえ人は互いに憎しみを捨て、許し合い、愛し合い、互いのいのちを我がいのちのように大切なものとしなくてはならないのです。

今年、平和記念式典での子供の平和の誓いは「本当の強さとは自分の考えを押し通すのではなく、思いやりの心を持ち、相手を理解すること、本当の強さを持てば、戦争は起こらないはずです」と述べられました。世界中の人々がこのようであればと願います。先日読んだ本の中にこんな言葉がありました。「マザー・テレサは、インドの町の貧しい民衆の中でわずかなお米をいただいて、うれしかったので貧しいヒンズー教徒の母親に分けに行ったのです。すると、その女性も喜んだが、またその半分をイスラム教徒の貧しい母親に分けに行ったのです、その時、マザー・テレサは「ここに神の国がある」といいました」（目のかすまず、気力は失せず；関田寛雄著）この母親たちは宗教は違っても平和の誓いのように思いやりの心を持ち、相手を理解した行動がありました。私たちも神の国の平和のために、平和をつくる者となれますように。ウクライナの為に、世界の平和と為政者のためにしっかりと祈ってまいりましょう。

伝道師 川島正子